

焼き板フォトフレーム

西川材の焼き板フォトフレームです。板を焚き火の中で焦がして磨くと、独特の色合いと光沢が出てきます。写真入れケースを貼りつけ、まわりを絵や文字で飾れば、素敵なフォトフレームが出来上がります。



対象	実施時期	定員	所要時間
小学生以上	通年	10～90人	2時間
利用者持ち物	プラザ貸し出し備品	材料	
軍手・マッチ(ライター)・新聞紙・持ち帰り用ビニル袋	たわし・火ばさみ・ラジオペンチ・両面テープ・木ねじビット・ポスカ・バケツ	板・写真入れケース・ヒートン・飾りひも ※炊事薪・せご板(別料金)	

ねらい

- ・木の特性を知る。
- ・自分だけのオリジナルデザインを考えながら物を作る楽しさを味わう。

実施の流れ

打ち合わせ・説明

- ◆開始 15 分前に、当所職員と団体代表者の打ち合わせを行います。
- ◆体験する子ども達、もしくは団体指導者の方に、道具の準備をしていただきます。
- ◆その後、全体への説明は当所職員が行います。

以降は、団体で進行してください

準備

- ① 軍手をします。
- ② 板をひとり一枚ずつ配ります。

実施

- ① 火床に薪(又はせご板)を置き、火をおこします。
- ② 火の勢いが弱ったら、板を焼き始めます。
- ③ 火ばさみを使って、板をまんべんなく焦がします。(板が焦げ過ぎてしまったら、火の粉をとる)
- ④ 焦がした板が冷めたら、平らな所に置きます。(石の上で行うと、板に傷がつきやすい)
- ⑤ たわしで焦げ目がなくなるまで木目にそってよくみがきます。(こげ茶色の生地がみえてくるまで)
※落としたりすすを吸い込まないように、風向きに気をつけましょう。
- ⑥ 新聞紙で、自然な光沢が出るまでよくみがきます。
- ⑦ 写真入れケースを板の中央に両面テープで貼りつけます。
- ⑧ 好きな絵を描きます。
- ⑨ 木ねじビットで軽く穴(3mm程度)を開けヒートンをつけます。
- ⑩ ヒートンに、飾りひもを結びつけます。

※当所職員は、団体指導者の方と共に安全管理やアドバイスをさせていただきます。活動が落ち着いたタイミングで、当所職員は事務室へ戻ります。何か不明点などあれば、事務室へお声がけください。

片付け

- ① 道具の数を数えます。
- ② 道具を最初にあった場所に片付けます。
- ③ 使った場所の掃除をし、新聞紙のゴミはお持ち帰り、または、ゴミ袋を購入してげんきプラザへ出す。
- ④ 後片づけは全員で協力して行い、次の団体が気持ちよく活動できるようにしましょう。

※片付けが終了したタイミングで、使用した場所の確認、作成した個数の確認を当所職員が行いますので、本館事務室へお声がけください。

まとめ

- ・出来上がった作品を見せ合い、形と絵の組み合わせなど、良さを見つけ合いましょう。
- ・ふりかえり
- ・感想発表等

留意点

- ① 火を使う活動です。火傷等十分注意しましょう。※火傷対策として、水をバケツに用意しておくとうよい。
- ② 作業するときは、必ず軍手を着用しましょう。
- ③ 焦げを出来る限り落としてから、丸めた新聞紙でみがくとよりきれいに仕上がります。
- ④ 飾りひもは、汗などで色落ちする場合があります。

SDGs への取組

- ・国産間伐材を使うことで、森の豊かさへの貢献ができます。
- ・自分で作ったクラフトに愛着を持つことで、モノを大切にする気持ちを育めます。

